

「歯科技工士の未来は、“理念”と“経営力”で拓く」

島 隆寛先生

(抄録)

近年、歯科技工業界を取り巻く環境は大きく変化しており、将来を見据えた事業運営には、従来の「技術力」に加え、「理念」と「経営力」が不可欠な要素となっています。歯科技工士が経営者としての視点を持つことの重要性に焦点を当て、業界が抱える課題を整理するとともに、持続可能な事業運営に向けた具体的な考え方と手法を解説します。

まず、収益性を確保するためには、感覚に頼るのではなく、数字に基づいた経営判断が必要であることを示し、単価設定や時間管理の視点から収益構造を可視化する方法を紹介します。次に、「選ばれる理由」や「信頼の構築」といった理念経営の実践方法について取り上げ、企業としての価値を高めるための考え方を提示します。

さらに、実務と経営の両立を図るための具体的なアプローチとして、週1時間から始める経営活動や業務の見える化の重要性についても解説します。

技術・経営・理念の三位一体による組織づくりが、歯科技工所の持続的な成長を支える大きな力となります。本講演を通じて、経営は一部の限られた人のものではなく、すべての歯科技工士が主体的に取り組めるものであることを共有し、参加者の皆様が第一歩を踏み出すための実践的なヒントをお届けできれば幸いです。

「歯科技工における生産管理の重要性」

品質と効率を両立させるための取り組み

大下 弘先生

(抄録)

近年、少子高齢化に伴う歯科医療ニーズの多様化、保険制度の変化、さらには人材不足といった課題により、歯科技工所はこれまで以上に「品質の維持」と「業務効率の向上」を同時に求められる時代へと移行しています。こうした状況下において、業務の安定運用と持続的な成長を支える鍵となるのが「生産管理」の考え方です。歯科技工における生産管理とは、納期や工程の計画、作業進捗の管理、品質管理、在庫・材料の管理、3S、人員配置の最適化など、複数の要素を組み合わせる統合的に管理する仕組みです。歯科技工物ごとの作業工程を標準化し、誰が、いつ、どの作業を担当しているかを見える化をすることで工程間のムダやバラつきを把握しやすくなります。これにより作業の偏りやボトルネックを早期に発見でき最適な作業工程が可能となります。次に、品質と効率の両立には人材の適正な配置が重要です。経験や技術の違いに応じて作業を分担することで、熟練歯科技工士の技術を最適に活かしつつ、若手歯科技工士の育成にもつながります。さらに、作業手順のマニュアル化や教育プログラムの整備によって、品質の安定化と属人化の排除を図ることができます。歯科技工所が今後も顧客からの信頼を維持し、競争力を高めていくためには、感覚に頼る属人的な技工作業から脱却し、データやロジックに基づく生産体制への転換が求められています。生産管理は単なる「作業の見える化」ではなく、品質の向上、納期遵守、コスト削減、そして人材育成といった多方面に影響を及ぼす、経営基盤強化の中核的要素です。本講演を通じて、歯科技工業務における生産管理の本質とその可能性について理解を深め、参加者の皆様が各自の現場で活かせる実践的な知見を持ち帰っていただければ幸いです。

「フルマウスボーンアンカードブリッジ症例での歯科技工士の役割」

歯科医師・歯科技工士それぞれの役割を共有する

井汲 建先生

(抄録)

インプラント治療における治療計画の作成方針は「補綴主導型」と「外科主導型」に大きく分けられます。従来は「外科主導型」が一般的でしたがインプラント体の埋入位置や方向が、上部構造の機能や審美性の確保に向いておらず、スクリュー破折や緩みなどの補綴的トラブル、自浄性・清掃性が確保できないことによるインプラント周囲炎の発症等様々な問題を生じ、治療結果に対する患者の QOL 向上に乏しい症例が存在することが指摘された為、1990年代後半より「補綴主導型」が主流となってきました。補綴主導型とは、最初に治療ゴールを補綴的（どのような歯を作るのか）に検討し、模型や CT 画像やシミュレーションソフトなどを用いて、治療前にインプラントの埋入位置を決めたりする方法です。その為、補綴主導型の術前診断において歯科技工士が製作する、診断用ワックスアップの形態・位置・咬合関係がインプラントの埋入ポジションから最終補綴装置の形態まで全てにおいて関係してきます。また即時負荷のフルマウスインプラント症例ではプロビジョナルレストレーションの強度・咬合が重要でありインプラント治療の成否を決めてしまう事があります。本講演ではフルマウスインプラントを製作するにおいて歯科技工士が悩まず製作して頂けるよう4つの工程「術前」「プロビジョナルレストレーション」「最終補綴装置」「補修」についてそれぞれの工程でのポイントをお話しさせていただきます。参加者の皆様が明日の臨床に活かして頂けると幸いです。